洞庭湖に遊ぶ（李白）

洞庭　西に　望めば　楚江　分かる
水　尽きて　南天　雲を　見ず
日　落ちて　長沙　秋色　遠し
知らず　何れの　処にか　湘君を　弔わん

洞庭西望楚江分　水盡南天不見雲
日落長沙秋色遠　不知何處弔湘君

解説　李嘩、賈至、それに李白の三人がともに流されている身で、相伴って洞庭湖に遊んだときの作である。

語釈　※洞庭＝洞庭湖。湖南省にあり、当時は中国第一の湖。中国の淡水湖としては鄱陽湖に次ぐ。※楚江＝このあたりを流れる長江のこと。※分＝楚江の流れと洞庭湖とがはっきり分かれていること。※長沙＝洞庭湖の南にある町。※湘君＝伝説によれば、舜帝の妃・娥皇と女英は、舜が南方への巡視中に蒼梧の野で死んだのを悲しみ、二人共、湘江に投身して湘水の神となった。祠は洞庭湖中の君山にある。

通釈　楚江に舟を浮かべて、遥か西方の洞庭湖を眺めると、楚江の流れと洞庭湖の水がはっきりと区別されている。さらに、南の湖に目をやると、一点の雲も見えない。日は落ちて、秋色は長沙のあたりを染め、蒼茫として暮れてゆく。どこで湘君の霊を弔ったらよいのだろうか。